

令和6年度第1回佐用町総合教育会議 会議録

◎日時 令和6年6月28日(金) 午後3時00分開会

◎場所 佐用町役場3階 301会議室

◎出席者

佐用町	町長	庵逄 典章
	総務課長	笹谷 一博
	健康福祉課長	木村 昌子
佐用町教育委員会	教育長	浅野 博之
	教育委員	岡本 正
	教育委員	花尾 睦明
	教育委員	檜本明日香
	教育委員	鎌本智恵美
	教育課長	三浦 秀忠
	生涯学習課長	高見 浩樹
	教育課企画総務室長	椿 誠
	教育課教育推進室長	西川 典男
	教育課西はりま天文台公園長	船曳 英司
	教育課学校給食センター所長	高橋 真弓
	生涯学習課生涯学習推進室長	鞍田 誠

◎会議日程

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議・調整事項
 - (1) 第4期佐用町教育振興基本計画について
 - (2) その他
4. 閉会

1. 開 会

生涯学習課長

ただ今から、令和6年度第1回佐用町総合教育会議を開催します。

2. あいさつ

生涯学習課長

町 長

はじめに、庵途町長からごあいさつを申し上げます。

皆さんこんにちは。梅雨明けはまだこれからですが、来月の梅雨明け以降、長期予報は今年も非常に猛暑が続くと気象庁の予報が出ております。環境温暖化の中で世界的にみれば、インドや中東の方は熱波が襲うとたくさんの方が亡くなっているというような状況であります。日本はおかげさまで温帯地域に位置しておりますが、やはりそれでも、兵庫県ぐらゐの位置でも、少し亜熱帯的な気候に変わってきております。

また、今日本の食料問題も色々議論されております。今の日本の食料の主な生産地は北海道です。北海道は非常に農業の規模が大きく、気温がちょうど良く、土地も広くてお米・野菜もたくさん採れるようになり、どんどん気候が変わってきているということが、非常に心配なところであります。

さて佐用町も合併してから来年がちょうど20年を迎えます。この20年間で日本の社会も急激に色々な面で変わってきておりますが、その中でも人口が減ってきたことは間違いありません。佐用町においても2万1千人で合併した町が現在は1万5千人をきるような状態です。将来を正確に予測するということは、誰もできない難しいことですが、その中であって確実に今予測できることは、人口が減っていくということです。このことについて様々な政策を色々と言われておりますが、人為的に増やしていくことは簡単に短期間で出来ることではありません。佐用町で今生まれている子どもはずっと佐用町にいるわけではないですが、今の出生数は40人台という状況であります。

この20年間、合併後の行政も教育に関しては、教育施設の整備や充実について最優先の中で行ってきましたが、教育環境の中でも統合をして、小学校が4校、保育園も5園、中学校が4校になりました。その中、このような時代の中においてタブレットを児童・生徒などに配布したり、教育施設、設備も新しいものにどんどん整備してきたことは確かです。ただそれを使った教育において、この後どのように成長していくかが一番大事なところであります。

今生徒・児童数が非常に少ない中でも、障害をもつ子どもたちも増えておりますし、また学校に行けないなどの不登校の子どもたちも増えております。これからも児童数が減っていくということを踏まえた上で、今後の義務教育だけではなく、幼児教育から高等教育まで含めて地域社会を支える人材をしっかりと育てていくということが、教育に課せられた大きな命題であります。そのようなことを基本方針として、佐用町におきましても教育振興基本計画が合併後に作られて今3期目であり、今年度第4期の基本計画を策定していくという中で時代の流れや社会状況をしっかりと捉えた中で教育の基本計画を作っていくということが大切なことです。ですからこの計画を作るに当たって十分に議論をしていただきたい。個々の子どもたち一人ひとりもしっかりと成長しながら、これからの社会を支えていく人材を育てる教育でなければならないと思っていま

す。町としても整備等については、状況に応じてこれまでどおり精一杯優先してやっています。

ただ、小学校は統合しましたが、これから中学校の4校についてどうしていくかも課題であります。ただ学校数を減らすというのが目的ではなく、今後子どもが生まれてから社会人として自立していくまでの教育という形になると当然、中学校や高校を含めた連携した教育も必要と考えていただかなければならないと思っております。特に中学校においては、今のままでいいわけではないと思います。これだけ時代が大きく変わり、社会状況が変わってくると、他の実態、近隣市町をみても小中一貫であり、中高一貫であり、一体的を考えた教育という形で進められています。それに必要な教育設備、施設というものは、必要であれば行政として遅れないよう取り組んでいかなければならないと思います。

いつの時代にあっても教育は非常に大変なことで、これが正解ということとはなかなか誰も分からないところがありますが、今与えられたそれぞれの立場で、私たちが考えなければならないことであり、みんな一人一人の責任でもあると思いますので、ぜひ今年度に、第4期の教育振興基本計画をしっかりと議論していくということが非常に大事だと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

生涯学習課長
教 育 長

続きまして浅野教育長、ごあいさつをお願いします。

佐用町の教育振興基本計画についてのご意見をいただくということがメインになると思うのですが、どの市町も昨年の県の基本計画を受けて今年度中にそれぞれの市町の基本計画を策定すると思ひますが、課題としましては、県も市町も共通してあることは、不登校対策・学力の問題・働き方改革など共通している部分は、都会も田舎も変わりはありません。

それで、子どものニーズの多様化、親の考え方が時代とともに変化してきております。先日、子ども会のドッジボール大会に行ったのですが、ドッジボール大会は、以前は参加者が多く賑やかな大会になっていたのですが、実際人数を調べてみると小学校の全体数が500人ぐらひに対しドッジボールに参加していたのが27チームで200人ぐらひでした。他の子どもたちはドッジボールより、他のニーズがあったのでしょうか、また親の考えもあるのでしょうか、そういったところで多種多様な考えが広がっている中で、どのように教育をしていけばいいかという観点にも立ちながら、基本計画を作っていかなければならないと思ひます。皆さんの今日の意見をお聞きして、それを参考に入れていきたいと思ひますので、よろしくお願ひします。

3. 協議・調整事項

生涯学習課長

続いて、日程3、協議・調整事項に入ります。

本日のテーマは、「第4期佐用町教育振興基本計画について」です。以降の進行は慣例により教育長にお願ひします。

教 育 長

それでは、事務局から「第4期佐用町教育振興基本計画について」の説明をお願いします。

教育推進室長

(別添資料「第4期佐用町教育振興基本計画について」により、教育推進室長から説明)

【第4期佐用町教育振興基本計画について】

・第4期佐用町教育振興基本計画について(案)

・第4期ひょうご教育創造プラン【概要】

教 育 長 第4期佐用町教育振興基本計画について説明しましたが、ご質問や感想等があればお願いします。

教 育 委 員 相生市でもあったように、いじめ問題が起こると通常の落ち着いた学校運営が非常にやりにくくなってきます。

被害(いじめ)にあった子どものことを中心に先に先に考えていくのは当然ですが、いじめをした側の児童生徒やその保護者への対応もちろん必要です。ただ非常にここが難しいところですが、重大になる前にできるだけケース会議など学校の中でこまめにやっていただいて、学校がスムーズな運営ができるような内容を、盛り込んでもらえればいいと思います

教 育 委 員 「確かな学力きらめきプラン」の標準学力調査の結果概要の中で、中学校目標値との比較で令和4年度の1学年の数学をみると 8.2 ポイントで優れているとなっていたが、この1年生が翌年の令和5年度には2年生になるわけですが目標値から 3.1 ポイントほど下がっています。これは学力的に下がったという判定をするのか、単なる数字上のことでたいしたことはないというふうに捉えるのか、その点の原因を突き止めることは大変な作業ではありますが、そういうところをみていくことによってウィークポイント的なところがはっきりしてきて、学力の向上や指導がうまくいくのではないかと思います。

教 育 委 員 家庭の教育力の向上という点なのですが、学童保育での状況になりますが、家庭の教育力がすごく下がっているというふうに感じます。南光学童では今年南光小1年生全体で20人弱いて、実際に学童には14人ほど来ている状況でありまして、ほとんどの子が学童を利用されています。その子たちは学童に来て、宿題を終わらせて家に帰ります。宿題を学童で一緒にみんなでやるのはとてもいいことなのですが、すごく気になるのは、その子どもたちの学習状況を保護者が全然把握されていないのではないかと心配があります。実際に毎年入ってくる1年生をみても、字を書くときに鉛筆を普通に持てないとか椅子に座る姿もなかなかで、じっとしてられないなどの状況があります。そのことを保護者がわかっているのかと思ったら、やっぱり把握されていないところもあります。

せっかくいい学童というシステムがあるのに、それが保護者が子どもたちに目を向けてない時間のほうが多くなっているっていうことについて、非常に心配です。学童を利用することが悪いのではなくて、利用することでそのまま教育も養育も丸投げするのではなく、しっかり子どもたちをみていってもらえるような家庭での保護者の教育する力というのをもう少し改善できるようなことがあればと思います。これから夏休みに入りますが、夏休みの宿題を学童でするのが当たり前と思っている保護者の方も当然います。自分の子どもがどこまで宿題が終わってるかということも把握してない保護者も多くいて、せっかくいい学童があるのにもかかわらずその点がもう少し保護者に関心に向けてもらえる何かいい方法があるのかなと感じます。

教 育 長 いろんな面でそういう傾向がみられます。今中学校はテスト前かテスト中で

早く帰っています。早く帰れたから勉強をしっかりとるのではなく、遊びに行っているという子もいました。親がその点をどう思っているのか。

昔はテストというと早く帰って勉強するという習慣がそれだったと思いますが、今の子どもは言わないとそういうことも教えられないし、保護者がどれだけ子どもにそういうことを言ってくれているのかというのがとても大事であります。

教育課長 ちなみにデータは昨年のもになりますが、平成 27 年に学童保育が始まった時は利用者数が 7.8%だったのですが、令和 5 年 4 月 1 日時点では町内全校児童数が 576 人のうち 171 人 (29.7%) の方が学童保育を利用されているというような実情であります。

教育長 先程委員も言われたように学童保育は保護者の就労の助けの意味もあって利用されるのはいいのですが、帰ってからの子どもの勉強にどれだけ関心を持ってもらえるかについての方策を何か考えていかなければなりません。

教育委員 子どもの家庭の教育力っていうのはやっぱりすごい差があり、本当に関心が薄い家庭もあれば、毎日みておられる家庭もあるかと思います。

教育推進室長 小・中学校の授業参観への保護者の参加率とかいうのはどうなのでしょう。実際に参観日自体の回数も保護者の方が勤められている方も多く、回数は減り精選して行っているのですが、やはり学年が上がるにつれて参加率は下がっていきます。低学年のうちには比較的たくさん来られ、子どもたちも来てほしいというスタンスです。参観日だけでなくオープンスクールも実施していますし、文化祭やその他行事があればたくさん参加もされています。

教育長 数年前から子育て支援券の配布を参観日とかに合わせて実施していることもあって、そのときには参加率もよくなります。

教育長 低学年の子どもって親が観に来てくれたら張り切ります。だから親に観に来てほしいという思いがやっぱり親にも伝わっているのだらうと思います。

私たちが一番気になっていることは、せっかく参加日に来られても教室に入って参加しなくて廊下から観る人が多いということです。「教室に入ってちゃんと観てあげてください。」とか言ったりはしているのですが、なかなかそうされない保護者が多いです。

教育委員 親にも子どもに関心を持ってもらえる機会とか方法もたくさん作っていかないといけないと思うし、家庭に任すことだけでは改善されないことなので歩み寄っていかないといけないなと思います。

教育委員 高校では参観日とかは無いのですが、一般的に学力の高いと言われている学校というのは、保護者の PTA 行事などは参加率が高いです。逆にそうでない学校については、それぞれの家庭の事情もあるとは思いますが、やっぱり保護者の参加率というのは低く、どちらかというと学校任せというふうな感じはあります。

町長 こうして計画を作るときにはどうしても抽象的な言葉が多くなってきてしまう。例えば兵庫県の教育基本計画には 10 の項目をあげています。こういうものがあるところの大項目だけみてある程度その想像がついてこういう方針を重点的にというのとはわかることもあります。例えば「令和の日本型学校教育の構築」というのは平成から令和に時代が変わったからこのような表現をしています。

これまでも「ゆとり教育」とか名前がありました。逆にそれを間違った捉え方してしまって教育の内容が問題になって修正しなければならないこともありました。

教育学は教育年齢の中で子どもが成長していく過程でいろんなものを覚えて学んでいくそういう年代というのはある意味では1歳から家庭の中、幼稚園そして小学校・中学校年代にあって、その時に必要なものをきちっと身につけていかないといけないと思います。だからそういう中で確かに学力というのも大切なわけですが、それは知識として個々の能力などです。ただよく言われるように学力だけではなくて、社会の中で生きていく社会人としての力というのはどう教育の中でつけていけるか、実際それが大事だということは誰も分かっているのですが、教育カリキュラムの中でどういう教育をするのかということになると、なかなかはっきりとしないところもあります。家庭教育とか家庭の教育力ということがより求められるところの部分ではないかと思えます。

それから地域との連携についてはこれまでも地域が学校を作る歴史からみても子どもを教育していく、子どもを育てていくという上で学校を作って学校を維持し学校を運営していくという、ここはやっぱり地域の一番大切な役割・仕事でしたので、その目的でこうやって今の町が作られてきたという歴史があります。これは当たり前のことなのですが、今これだけ地域の人がいなくなっていく中でどんどんと高齢化もし、そういう時代の中で地域とともにある学校というのは具体的に地域とどう関わるのか、またどういうふうに地域が役割を果たさなければならないのか、このあたりも整理していかないとはいけません。一つ例えると、運動会は昔は地域の運動会という形でみんな地域と一緒にやってきたが、今はもうそれがほとんどできなくなっているし、実際やってないのに、改めてそういうことを求めていくような一つの項目として上げるだけではなくて、本当にその中身をしっかりと考えてもらいたいと思います。

ところで、このコミュニティスクールの導入とはどういうことをするのか、何をすることによってコミュニティスクールというのですか。

教育推進室長

地域との連携というところでは、佐用町においてはかつてから地域づくり協議会と連携したり、いろんな教育活動に地域の方に参画させていただいてもともと結びつきあってしていました。国・県の方針で年々この学校運営協議会という組織を立ち上げてそれを設置した学校がコミュニティスクールとなります。それ自体は佐用町だけでなく播磨西管内はほとんど設置してないので、そういうこともあって指導が入ってきている状況であります。

町長が言われたように今新たなものを作ると非常に学校も地域も負担感があるので、今のある組織等を有効活用させていくことにしています。実際学校にも学校評議員制度というのがありまして、それをこのコミュニティスクールに移行していく方向で今佐用町は動いていますが、より地域の方々が学校教育の中にも参画してもらいやすいようにというのが一番の目的なのです。

教 育 長

今実施をしている部分もたくさんあります。例えば登下校でずっと見守りについてこられている地域の方もおられますし、そういうことをもっとコミュニティスクールを作ってやっていったり、実際に田舎の学校はゲストティーチャーを呼んでいろんな話をしてもらっている部分を組織立ってやってほしいとい

うことです。

町 長 普通の生活の中でやるようなことは、そのまま進んでいいものをきちっと組織としてやっていなければならぬということになると、逆に今度はやりにくくなってしまふところがあります。

これだけ総児童生徒数が減ってくると、こういう一つ一つの目標なり、こういう教育の中に活動があったとしても、それを実際に子どもたちと一緒に学んでいくという集団的な教育ができなくなってきたり活動ができなくなってきたりしていきます。また人との関わりも非常に少人数になってくるから、たくさんの人との価値観・多様性というものをなかなか学ぶことが出来にくくなってきています。

解決していくにも人口を増やせということは急には無理なことであるし、実際にこれからまだまだ確実に人口が減り、特に子どもたちが減少していくということは間違いのないため、そういう中でどうやって活動をしていくのかということを考えなければなりません。どこの市町にもすべて当てはまることではないが、ここ佐用町の今の実情の中でということを考えざるを得ません。

今までの小・中学校の6・3制ではなく、そういう1つの年代を集めた学校、それこそ保育園で例えれば、今保育園とか幼稚園とかいうのではなくて子ども園という名前になっているが、学校も同じように形の上ではそうならざるを得なくなってしまうています。

ここの基本計画の中には、今後の学校統合の問題をどうするかという具体的なことを挙げることはとてもできないと思いますが、そのことを念頭に置いたうえで考えてください。本当に10年後には一気に人口が減るのが現実となっていますので。

教育委員 部活動改革の推進ということで、今の状況をみて部活動改革といえばなんか縮小のようなイメージがしているのですが、なにか活性化できるような方法ないかなと思っています。特に中学校で、集団でするスポーツがなかなか活動できないため、個々のスポーツでないと活動できないという状況で、佐用高校でも活動が縮小になって弱くなってきているようです。なんとか部活動を活性化できるようないい方法があれば盛り込んでいたい。

教育推進室長 先日佐用高校の校長と話した時に一時期コロナの影響があって佐用高校でも部活動に入る子が3割まで落ちたということを知りました。ただ学校も何とか活性化したいということで学校全体で取り組まれて今なんとか6割くらいまで回復したと言われていました。そういった情報を参考にしながら、運動部だけでなく、文化部で頑張る子もいますのでこの策は考えたいと思います。

教育委員 通学範囲が広がっていますので、遠くから通学していたら部活動というのは難しいとは思いますが。

教育長 部員が少なく佐用高校として野球部が大会に出られない時もあったけど、今年は兵庫県の大会にも佐用高校の名前がありました。地元の子が結構たくさん入っていたそうです。

町 長 部活動の指導員の委託をするというのは、これからどうなっていくのか。

それぞれの部活動を民間に委託するにも、地元人材がないのではないですか。

教育推進室長 なんとか、今の現状の部活動を維持しながら、また先生方の負担を軽減しながらやっていかないといけないと考えています。佐用町においては、上月中学校に1人OBのバレーの指導者を入れている状態で、佐用町として少しは前に進んでいます。他の部で、地域に人材がみつければ少しずつ入れていきたいと考えてます。

今、町長が言われましたとおり、実際はなかなか人材がいません。

教 育 長 新聞では神戸市が2026年度には完全に移行すると書いてありました。本当にやってくなら、佐用町では地元だけでは難しいところです。

近隣の地域のクラブに行くことを認めていくことになるなどの問題も出てきます。

教 育 委 員 町外へ生徒が出ていかず、とにかく町内に子どもたちに残ってもらって、その中で部活動があり、何かできるような体制を作れたらなと思います。

町 長 今でも部活動ができないような状況になっており、さらに生徒が減っていくというその時に、学校を統合して1つにしても小規模校ですので、どれくらいの部活動ができるかわかりません。部活動と合わせて日々の学習についてもみんなと一緒に勉強していくということが必要であり、また、少しでもある程度の規模・人数が多い方がいいということになれば、最終的には佐用町の今の学校を1つの学校として再構築するということになります。そうしたときにこれだけ広い町域の中で子どもたちの通学の問題が出てきます。時間的な考えで物理的に非常にマイナス面も出てきて、そことの兼ね合いになってきます。そっちの方のマイナスが大きいことになると、次の方法として小中一貫という話になってきます。たつの市でも来年度から工事にかかって令和10年に小中一貫校が開校します。そこがどのような教育を考えているのかを聞いて勉強する必要があります。

施設を作る、整備するということは、佐用町でもそれが必要であるという事になりますが、そのなかで今後どういう教育をしていくかをよく協議していただきたい。

教 育 長 ほかにありませんか。

ないようですので、これもちまして第1回総合教育会議を終わります。

長時間にわたり、ありがとうございました。

4. 閉 会

生涯学習課長

次回は12月に開催します。お疲れ様でした。

閉会時刻

午後4時20分